

土佐茶のはなし

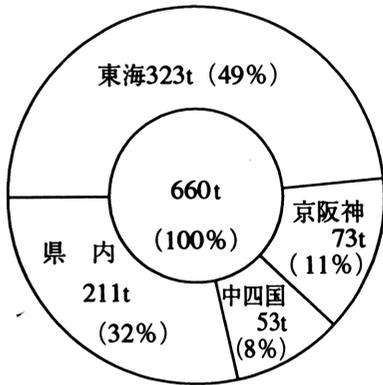
(発展の経緯と施肥の現状)

高知県農業技術センター 茶業試験場

場長 藤田 祥勝

「土佐茶」は、高知県で生産されている煎茶の総称であり、商品形態は仕上げ加工して店頭で販売される品もあるが、50%以上は荒茶として静岡方面へ出荷されている(図-1)。生産量は全国

図-1 荒茶の出荷割合



の1%に満たないが、生産の歴史は古く、古文書によれば15世紀頃には茶園を所有する寺が有ったことが記されている。特に室町時代以降は、戦国大名等が社交上好んで茶を利用するようになると、生産が奨励されたこともあって、この頃から「土佐茶」として西日本一帯に広く知られるようになった。

我が国では、茶は関東以南の殆ど全地域で栽培されているが、栽培の始まりは12世紀頃僧によって中国から持ち帰った種子が、人為的にあるいは逃生増殖して、全国に広がった渡来作物であるとされている。しかし、四国・九州に自生する茶、いわゆる「山茶」は、それが日本個有の種であるか否かは別として、その分布状況からみて少なくとも種子伝来以前から自生していた植物であるとする考えが通説となっている。このことについては、牧野日本植物図鑑(北隆館)にも、「中国並ニ本邦ノ原産ノ常緑灌木」と記載されている。

土佐茶は元来、このように豊富に自生する在来

写真-1 在来種自生園(高知県仁淀村)



本号の内容

§ 土佐茶のはなし..... 1
(発展の経緯と施肥の現状)

高知県農業技術センター 茶業試験場

場長 藤田 祥勝

§ 環境保全型農業における施肥..... 6

熊本県農業研究センター

農産園芸研究所 土壌肥料部

部長 久保 研一

種を利用して作られていた。17世紀頃には茶樹の植付けが奨励されたこともあるが、本格的な栽培ははるか後の大正時代になってからである。写真は現在も残っている自生園である。

写真—2 多く見られる産地相 (高知県仁淀村)



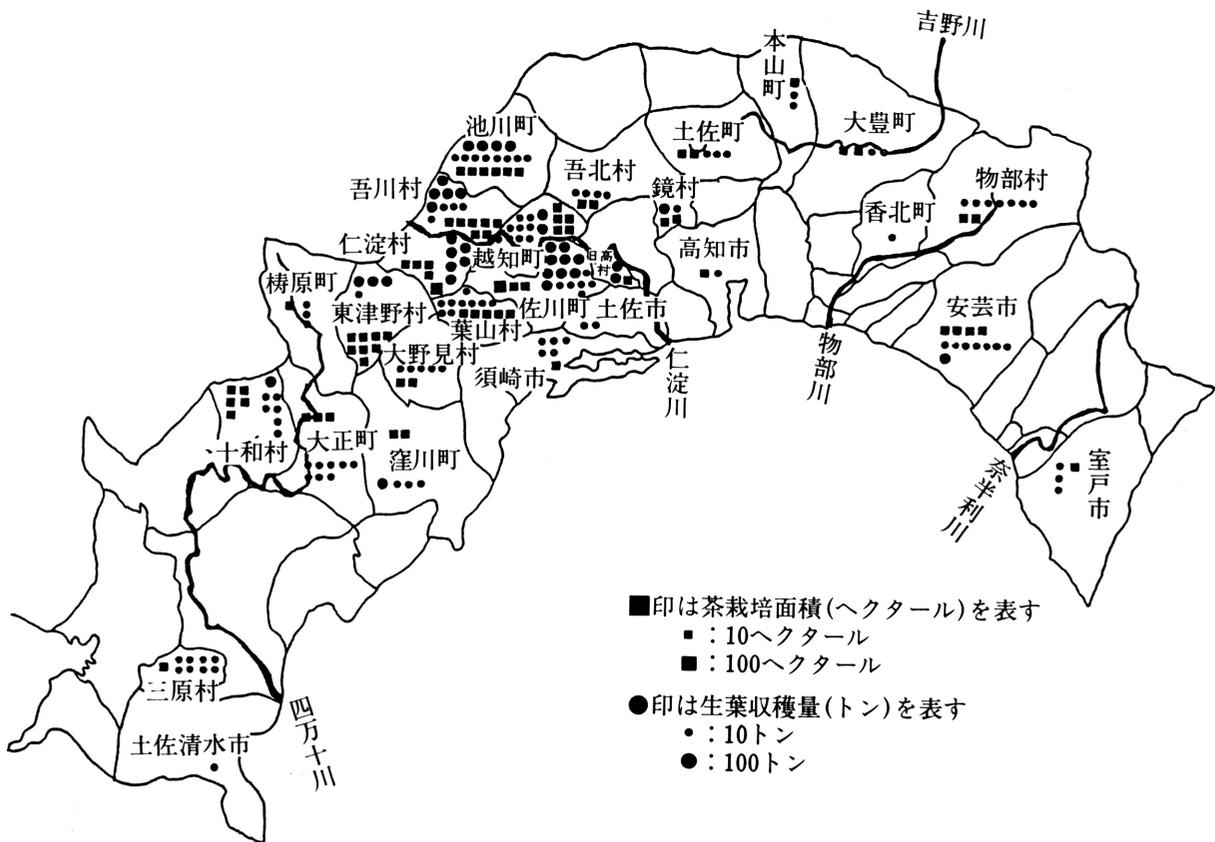
また、土佐では古くから「黒製」といわれる茶があり、これは愛媛県の山間部から高知県中山間部にかけて作られていた地茶で、山茶を利用した「釜炒り日干茶」で、現在でも一部で生産されて

いる。明治初期、京都から茶師を招いて指導を受け、この日干茶を緑茶風に改良した「青製」も作られるようになり、輸出品としての価値が高くなるにつれて生産も盛んとなり、地場産品の一つとして重視されたこともあった。

以上のように、高知県では茶生産の歴史は古いですが、緑茶のそれは比較的新しく、出発は明治末期静岡県から講師を招くなど積極的に技術者の養成にあたり、徐々に緑茶としての品質と生産量が向上した。また、茶種の導入や栽培の集団化を目指した増産計画の策定などは、昭和になってから始められた。

高知県の茶業が特に活発になったのは、第二次大戦後の昭和30年代で、この頃、県茶業振興計画のもとに、茶園の造成、自主園の改植等により、品種化率は全国一となった。以来、茶は中山間地域の基幹作物として定着した。作業がはなはだ困難な山間傾斜地で、このように茶業が発展してきたのは、自生茶園が存在することでもわかるよう

図—2 茶産地地図 (市町村別茶栽培面積・生葉収穫量)



に、温暖多雨の気象と、四国を東西に走る古成層に由来する土壌条件等が茶の植生にとっては極めて好適なためであろう。

しかし、産地は県下全域に分布しているものの、主産地が形成されているのは、主要河川の中～上流域に多く、とくに仁淀川と四万十川の上流域地域に集中している。これは、この地域に競合作物が少ない理由の外に、急峻な地形による局地気象の影響を受けて、とくに良質の生葉が生産されることによるものと考えられている。

栽培地の基盤が整備されるに伴って、製茶技術の向上にも一段と力が入り、先進地に伍すべく製茶工場の近代化が図られるようになった。昭和25

表一 種類別・戦後・生産量 (単位：t)

年次 5ヶ年平均	荒茶 生産量	緑 茶			紅 茶	その他
		普 通 せん茶	玉緑茶	番 茶		
昭.21~25	390	124	9	340	0	4
26~30	767	333	50	364	10	9
31~35	639	297	9	292	32	3
36~40	543	275	13	226	28	—
41~45	770	495	5	241	19	—
46~50	1,118	860	1	207	2	—
51~55	1,092	948	—	178	—	—
56~60	1,046	848	—	225	—	—
61~63	940	759	—	180	—	—

表二 茶園土壌の理化学性 (高知県農業技術センター)

調査日：平成2年11月

地 域 名	調査番号	pH	NO ₃ -N mg	交 換 性			トルオーグ P ₂ O ₅ mg	仮比重
				CaO mg	MgO mg	置換性 K ₂ O mg		
佐 川 町	1	4.3	25.5	338	58	158	256	0.29
	2	3.4	6.3	25	5	5	128	0.54
	3	3.4	4.5	28	6	7	96	0.55
	4	3.5	7.6	63	18	48	132	0.45
	5	3.8	2.1	64	19	46	96	0.89
池 川 町	6	3.4	21.7	139	23	138	408	0.42
	7	4.2	14.1	177	28	99	317	0.67
	8	3.3	3.3	45	10	100	190	0.72
	9	3.1	7.9	40	8	64	120	0.80
	10	2.9	7.6	30	10	54	139	0.69
仁 淀 村	11	3.7	19.7	189	32	63	201	0.52
	12	3.6	13.3	92	14	58	90	0.70
	13	3.3	8.6	60	15	51	100	1.02
	14	3.3	7.3	42	9	35	15	0.54
	15	3.7	6.6	132	25	60	19	0.59
"	16	2.9	23.5	25	10	47	14	0.42
	17	3.3	9.6	25	10	25	7	0.94
	18	3.5	13.7	35	10	41	11	0.53
	19	3.2	12.1	17	8	40	9	0.51
	20	3.0	9.4	65	10	49	10	0.70
東 津 野 村	21	4.2	0.3	24	4	10	6	0.63
	22	4.8	2.3	210	60	30	17	0.44
	23	4.6	0.5	31	4	26	4	0.45

表—3 一般的施肥基準(例)

(10 a 当り)

施肥時期		肥料の種類	施肥量 (kg)	成分量 (kg)		
				N	P	K
春 肥	2 月 下 旬	有機配合	140	14.0	5.6	8.4
	3 月 中 旬	配 合	60	10.8	2.4	3.6
芽出し肥	4 月 上 旬	硫 安	60	12.6 (9.6)	(9.6)	(6.0)
夏 肥	1 番茶摘採前	化 成	50	10.0	2.0	4.0
	1 番茶摘採後	硫 安	60	12.6		
	2 番茶摘採直前	配 合	100	11.0	3.0	3.0
秋 肥	8 月 上 旬 中 旬 (深耕前)	堆 肥	3,000			
		苦土石灰	120~160			
	8 月 下 旬 ~ 9 月 上 旬	有機配合	140	14.0	4.2	7.0
	9 月 中 旬	配 合	120	13.2	3.6	3.6
合 計				98.2 (95.2)	20.8 (30.4)	29.6 (35.6)

年には関西茶業協議会に加入し、同会主催による品評会においては上位入賞することも度々である。

先述のように高知は茶園が傾斜地に在るため摘採作業ならびに、肥培管理には多大の労力を要するとともに、年間雨量が3,000 mmと多く、肥料の損失はきわめて大きい。とくに夏場は地温の上昇

に伴って硝酸化成が速く、土壌中の養分濃度は極端に低下することがある。表—2は代表的産地の作土の分析結果であるが、これをみると、pHが低いこと、交換性石灰・苦土の量も畑地としては概して少ないことがわかる。同じく土壌中の無機態窒素($\text{NO}_3\text{-N}$)も、乾土100 g 当り10mg以下の地点が65%を占めており、溶脱が激しいことがう

表—4 施肥例1

(10 a 当り)

	施肥時期	肥料名	施肥量 (kg)	成分量 (kg)		
				N	P	K
春 肥	2 月 中 旬	菜 種 粕	180	9.9	3.6	1.8
		N K ロ ン グ 180	150	30.0	—	19.5
	3 月 上 旬	土佐茶専用有機	100	10.0	3.0	5.0
芽出し肥	4 月 上 旬	硫 安	60	12.6	—	—
土壌改良	8 月 中 旬	苦 土 石 灰	100	—	—	—
秋 肥		K H 有 機	100	5.0	5.0	5.0
		土佐茶専用有機	120	12.0	3.6	6.0
合 計 成 分 量			—	79.5	15.2	37.3

表—5 施肥例2

(10 a 当り)

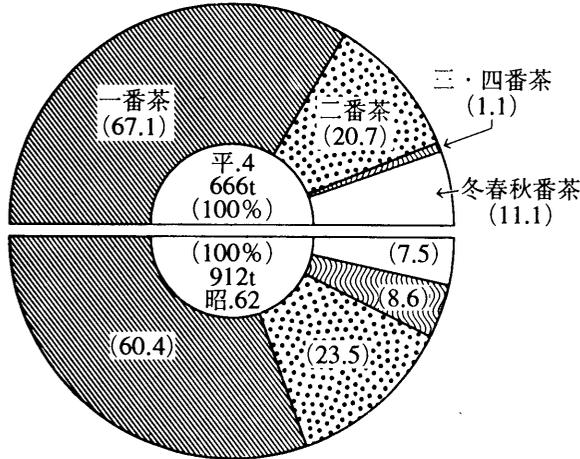
	施肥時期	肥料名	施肥量 (kg)	成分量 (kg)		
				N	P	K
春 肥	2 月 中 下 旬	津野山茶専用配合	320	35.2	12.8	16.0
芽出し肥	4 月 上 旬	硫 安	60	12.6	—	—
夏 肥	一 番 茶 後	土佐茶専用ペレット	120	12.0	3.6	6.0
土壌改良	8 月 中 旬	苦 土 石 灰	100	—	—	—
秋 肥	9 月 上 旬	津野山茶専用配合	210	23.1	8.4	10.5
合 計 成 分 量			—	82.9	24.8	32.5

かがえる。また、土壌中のりん酸・カリが比較的高濃度に保たれているのは、三要素の施用回数が多く、集積するものと考えられる。

このため、最近では養分保持と省力を兼ねて、茶園に対して緩効性肥料を用いた施肥体系の導入

図3 荒茶生産量の構成割合

(資料：『作物統計』『高知統計情報事務所調べ』)



が進められている。表4～5はロングを用いた県内での施肥設計の例である。

土佐茶は、良質の生葉から作られる独特の香の高い一番茶に商品価値が置かれている。県では、今後の課題として土佐茶としての価値を更に高め、仕上げ茶として県外への販路を拡大するために、生茶の特徴を活かした銘柄の統一を図り、「土佐茶」のブランド化が求められている。

〔注〕 J A 津野山茶配合の内容

配合原料	配合割合
菜種油粕	34%
骨粉	13%
魚粉	8%

配合原料	配合割合
ロング426	28%
硫安	10%
硫加	7%

—— チッソ旭の肥料で豊かな実り! ——

コーティング肥料

ロング® ハイコントロール®
LPコート® マイスター®
ニュートリコート®

緩効性肥料

CDU®

泡状肥料

あさひポーラス®



硝酸系肥料のNo.1

燐硝安加里®

打ち込み肥料

グリーンパイル®

園芸床土用資材

与作® V1号

 チッソ旭肥料株式会社